

特集

お釈迦様ものがたり

——いよいよ悟りの瞬間へ



No. 10
2003 Winter

すこともなく、冷たい口調できっぱりとはねつきます。

「おまえたちは汚い匂いがする。腐れ切った不浄な者たちめ」

目にした魔王は激怒し、軍勢を率いてお釈迦様に襲いかかりました。お釈迦様は少しもひるむことなく、真正面から魔王を見据えて言い放ちます。

「おまえの軍勢がどれほどのものであろうと、私は勇気を持って戦う。さあかかって来い」

魔王の命令一下、魔王の軍勢はお釈迦様がけて襲いかかりました。岩の雨、刃の雨、火の雨が降り、虎や龍や象の化け物が次々と殺到しました。お釈迦様の坐っている場所も、木っ端微塵に砕け散ってしまうほどの凄まじさ。最後には、心を凍りつかせるような漆黒の闇に閉じ込められました。魔王も妖術の限りを尽くし、お釈迦様の心に飢えや恐怖を植え付け、怠惰や睡魔に誘い、疑惑と混乱に引きずり込もうとしました。

真に覚醒した者よ

しかし、お釈迦様の心を乱すことはできません。魔王の軍勢は、日が落ちるまでに、完膚なきまでに叩き潰されてしまいました。お釈迦様は、魔王の軍勢に実体がないことを見抜いていました。どんなに激しく攻められても、魔王の幻術に惑わされることはなかったのです。

最初の夜がきました。瞑想は深く研ぎ澄まされ、宇宙の成り立ちがまざまざと見えてきました。二日目の夜は、人々の無限に繰り返される生と死、輪廻の実相が見えてきました。

三日目の夜は、「生きることの一切は苦である」と感得します。無数の原因によって結果が生まれるという「縁起の法」を悟りました。

お釈迦様の全身を歓喜の渦が貫いていました。それは次から次へ泉のように湧きあがり、お釈迦様の身体は神々しい光を放っていました。早朝の清浄な空気の中で太陽の輝きに包まれて、お釈迦様は「真に覚醒した者」＝仏陀になられたのです。



な空気の中で太陽の輝きに包まれて、お釈迦様は「真に覚醒した者」＝仏陀になられたのです。

誘惑の魔の手

前回お話しましたように、お釈迦様は何不自由のない王子の身分も幸せな家庭も捨て、二十九歳で出家されます。六年間の苦行を重ねた末に、限界を悟って苦行を止めました。菩提樹のもとに坐り、足を結跏趺坐に組んで、瞑想に入ったのです。

このとき、遠くそびえる魔王の館は激しい揺れに見舞われました。「何ごとか！」と驚いた魔王は、解脱への扉を開こうとしている人間が現れたことを察知します。死と輪廻をつかさどる

魔王は、タンハー（渴愛）、ラーガ（快楽）、アラテイー（嫌悪）という三人の娘を、お釈迦様のもとに走らせませす。

三人の娘たちは、男心を惑わすことにかけては誰にも負けない絶世の美女ぞろい。妖しい魅力を振りまきながら、お釈迦様にまとわりつき、ありったけの秘術で誘惑しました。並の男なら、たちまちのうちにやだれを垂らし魂を抜かれてしまったことでしょう。

襲いかかる魔王の軍勢

しかし、お釈迦様は禅定の姿勢を崩

總持寺のお正月

天草の重成公

先日、この「ほろっと」の編集に携わっておられる三田先生と、熊本県天草方面へ行ってきました。天草と言いますと、臨南寺ご開基の鈴木三郎九郎重成公との関係が深いところですね。住職より何回となく話を聞いておりましたので、良い機会と思いい足を延ばしました。

天草では、重成公がお開きになった、東向寺、国照寺、芳證寺様に拝登させていただきました。



天草の鈴木神社

三か寺とも、大阪では見ることができないすばらしい伽藍を維持されており、往時の繁栄



臨南寺 副住職

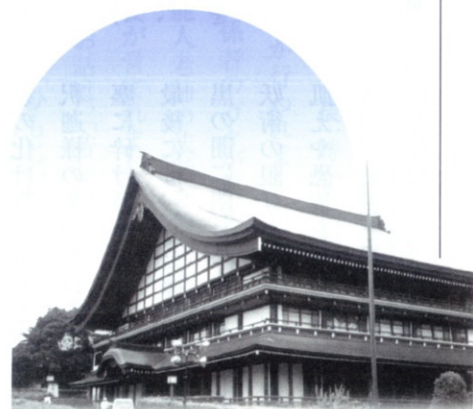
大澤正道

ぶりを偲ぶことができませんでした。開基の重成公を大切にお祀りされ、その偉業を今に伝えられております。

また、鈴木神社という神社にもお参りしました。天草では、重成公の代官時代の功績に感謝し、重成公を神様としてお祀りしています。住職から聞いてはおりましたが、重成公がこれほどまでの方とは思っていませんでしたので、大変感激いたしました。

後醍醐天皇のお袈裟

今年も早いもので、お正月が近づいてきました。私は横浜・鶴見の總持寺に六年間安居修行いたしました。總持寺には、正月三日は何万人という方々がお参りになります。また、總持寺でしか行われない儀式もあり



總持寺・三松閣

ます。そのことについて少し説明したいと思います。

總持寺では三が日間はもちろん朝課（朝のお勤め）をいたします。その後、あるお袈裟に向かつて三度礼拝します。これは後醍醐天皇に頂戴したお袈裟です。總持寺は、後醍醐天皇に曹洞宗出世道場と認められ、「大本山」の位になりました。それに敬意と感謝の気持ちを表して、下賜されたお袈裟に礼拝するのです。總持寺独特の、後世に残したい儀式の一つです。

皆様には時節柄ご自愛いただきますよう、そして良いお年をお迎えいただきますようご祈念申し上げます。

合掌

心休まる憩のひととき

私だけの「ほろっと」タイム

人それぞれに違う、心が落ち着くとき。さて、読者の方から届いたのは、どんなほろっとする時間でしょうか？

仕事のあとのお風呂タイム

父親が始めた畳屋を継いで四十年、大掃除でも畳替えしなくなり、畳針をする職人仕事も減ってきました。それでも、仕事が終わってお風呂に浸かったときがなんとも言えずほろっとします。年明けには初孫が生まれて、いよいよおじいちゃんです。

堂平 廠さん 60代 畳店経営

三つのほろっと

広い景色を見るのが好き。若いときは山登りによく行きました。北アルプスを縦走して槍ヶ岳のてっぺんから見る壮大な景色は今も眼に焼きついています。最近はヨットでのクルージングが楽しみです。操船の緊張感と、見渡す限り水平線の開放感は何とも言えません。もう二つは、二歳と四歳の孫。二泊三日で遊びにくればにぎやかで、嬉しい。でも、帰ってほろっとするのはです。

藤田 衛さん 60代 無職

あなたのほろっとするときは

どんなときでしょうか？

ハガキかFAXでお寄せください。



坐禅は習禅にはあらず

念松山 がしんしょうざん

臨南寺住職

渡邊 剛毅



この言葉は、宗祖・道元禅師が書かれた『普勸坐禅儀』の中に出てきます。『普勸坐禅儀』は、中国から帰った道元禅師が初めて書かれたもので、坐禅の正しいやり方から功德まで具体的に書かれています。

「坐禅は習禅にはあらず」のあとに「唯これ安楽の法門なり」と続きます。道元禅師は、坐禅は、決して「悟りへの道」ではなく、「悟りそのもの」であるとおっしゃっているのです。確かに初めのうち坐禅は苦しい。一般の人には修行のように思えるかも知れない。しかし、決して苦行ではありません。坐禅をしているうちに、

命と心が開放され、心身が自然に「脱落」して、本来の自分を取り戻すことができます。静かな心、明鏡止水の境地を得ることができるようになります。

今年もまもなく終わり、新しい年が始まります。来年こそ戦争や争いのない穏やかな一年でありますよう祈らずにはおられません。皆様にも良い年でありますように。

至 禱

弁天さま祈禱会



一月十五日（木）開催

臨南寺では、毎年一月十五日、弁天さまをお祀りし、『大般若波羅密多經』六〇〇巻の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

弁天さまは、七福神の一つで正しくは弁財天と言い、インドの聖なる川サラスヴァティーを神格化した「水の神様」です。弁天さまにもいろいろありますが、臨南寺の弁天さまは、お顔は一つながら、八本の腕に弓・刀・斧など八つの武器を持つ「一面八臂像」です。



弁天さまは、言語、知識、音楽をつかさどり、怨敵を滅ぼし、福德・財宝を授けるとされま

す。学問、文芸、芸術、芸能の守護神として信仰されています。

わが国が安らかで穏やかに、また世界中に平和が訪れ、すべてのことがめでたく幸せでありますように――檀信徒の皆様や参詣者の方々の身体健全と家門隆盛、家内安全を祈願する法要を行います。ご家族、お友達をお誘い合わせの上ご参加ください。

臨南寺行事予定（一～三月）

□ 本堂ご開扉

一月一日～三日

午前九時から午後三時まで

本堂を開放いたします。ご焼香の用意をしておりますので、お参りください。

□ 弁天さま祈禱会

一月十五日（木）

午前十時～十一時

皆様の厄を払い福を招く法要を行います。甘酒の振る舞いもございませう。

□ 彼岸会

三月二十四日（水）

先祖供養の法要を営みます。

* 一月の早朝坐禅会中止のお知らせ
毎月第一土曜日に行っております早朝坐禅会を一月は中止いたします。

弁天さま万灯会 八月十二日(火)



弁天さま万灯会は、ご先祖を供養するとともに、ご自分の願いがかなうよう祈りを捧げる行事です。臨南寺の境内に「家門隆盛」「合格祈願」などの願いを込めた灯籠がならび、夏の夜は揺れるともしびに包まれました。

能に触れる夕べ

喜多流の長田おきたな驍師による能「羽衣」を上演しました。今回は入門編。「おもて」と呼ばれる面をいくつか用意して、手にとって見てもらったり、みなさまの質問にもお答えいただきました。本堂いっぱいの人で、日本文化の奥深さに酔いました。



セレッソ大阪トークショー

長居スタジアムをホームグラウンドにしているセレッソ大阪から、西村監督、国際大会で活躍している大久保選手をはじめ、人気選手が参加。トークショーとチャリティー抽選会を練り広げました。紫雲殿にあふれんばかりの盛況で、若い熱気に包まれました。



マトリ合同法要「紅葉祭」行われる

十二月九日(日)午後二時から、がつしょう園マトリの合同法要「紅葉祭」が行われました。あいにくの雨の中でしたが、大勢の関係者の方々が集まりました。那須の泉溪寺住職・山本能人老師の法話をお聞きしたのち、読経や焼香などの法要が営まれました。

山本老師のお話は、「苦しい経験は心を柔らかくする」「ひもじい思いをした人はものを大切にする。人を大切にする。生命を大切にする」など、母親や父親の厳しくもやさしい愛情の素晴らしさを説いた感動的なものでした。



写経会

主人のために続けています。

臨南寺では毎月一回写経会が開かれています。一月二十日の写経会を覗いてみました。午前十時から、副住職の先導で「般若心経」を全員で読経し、心を落ちつかせます。そして、手本を見ながら一文字一文字でいねいに「般若心経」を写していきます。写し終われば願い事を書き入れ納経します。その間約一時間。何故か気持ち

がすっきりします。「主人が亡くなって、何かしてあげることがないかなと思いついたのが写経でした。毎月来ています」そんな方もいらっしゃいました。あなたも一度参加してみませんか？



お気軽にどうぞ

坐禅会

毎月二十日 午前十時～午後一時
献香料(お志)

早朝坐禅会

第一土曜日 午前六時三十分～一月・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料/二〇〇〇円

子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時～九時
一か月/六〇〇〇円

※いずれも事前のお申込みが必要です。

「ほ〜っと」10号

平成15年12月

編集・発行: 椋伽林「ほ〜っと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール: rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ: http://www.rinnanji.com

編集後記

年ごとに1年が過ぎるのが早くなるような気がします。9号から表紙を変え、色も変わりました。今回の内容はいかがでしょう。ご感想をお寄せください。採用分には粗品を送らせていただきます。どうぞお気軽に編集室までお送りください。FAXでも結構です。